

都道府県別賞一等

スーパーパーお守り

福井県 勝山市立勝山北部中学校 二学年

廣田 真里菜

「もう、会えないかと思った。」

近くの川が大雨によってあふれ、家が浸水した。弟と祖父母が家の二階に取り残されていた。テレビで流れていた水害の映像が思い浮かぶ。濁流によって家が流されてしまうのではないか。そして家族はどうなってしまうのか。恐怖と不安で震えがとまらなかった。幸い水は引き、弟たちを助け出すことができた。壁にくつきりと残った水のあとは、私の腰くらいの高さだった。家の内にも水が入りこんでいる。もし、弟たちが外にいたら、一階にいたら。そう思うと今でもぞつとする。

この作文を書くことになるまで、生命保険のことに、ほとんど何も知らなかった。インターネットを見ている、○○保険というのがたくさんできて、何がなんだかわからなかった。

母と保険の話をしてきたときのことだ。今回の水害で死者はでなかったが、もし、誰かが亡くなってしまっていたらということを考えた。そんなとき、母が言った。

「もし、水害で、人が流されてしまったとするでしょう。どんなに探しても遺体が見つからなかったら、生命保険は支払われないのかな。」

『確かに』と思った。そう思ってインターネットで調べてみた。そこにはこう書いてあった。

「死亡したのは確実であるが、遺体が見つからない場合がある。このような場合に、その取調べにあたった役所が死亡の認定をして、戸籍上死亡として扱います。」

と書かれていた。死亡の認定があれば、生命保険の保険金が支払われる。でも、役所に届けをださなければならぬ。保険金は支払われる。でも死亡の認定を受けるには、死亡認定の届けをださなければならぬ。その届けが人を殺しているみたいで少し怖いなと思った。生命保険には色々な種類がある。もし、遺体が見つからないときにも使えるようになればいいのと思う。

テレビドラマで、生命保険に入らない人の話を見た。生命保険に入らなかった理由はこうだ。

「保険料の負担を減らしたいから。」

「今まで、大きなケガや病気をしたことがないから大丈夫。」

## 第60回中学生作文コンクール

確かに、いつあるかわからないもしものために、高いお金を払うのは大変なことだと思う。今までにそういった経験がないとなおさらかもしれない。私はきつと大丈夫だろうと思ってしまうのかもしれない。でも、それで本当に良いのだろうか。「きつと大丈夫」は「絶対大丈夫」とは違う。「きつと」は「もしかする」とあるかもしれない」ということなのではないか。生きていけば、どこかでもしもは起こり得る。「絶対大丈夫」そんなことはないと思う。絶対大丈夫が本当にあつたら、世の中ぐちゃぐちゃになってしまうと思う。ある人にとっての絶対と、別の人にとっての絶対が真逆だったらどうなってしまうのか。

保険料は確かに負担だ。私たちはまだ子供なので、払っているのは親だが、いずれ私たちも払うことになると思う。高いお金を払い続けるのは大変だと思う。でも、そうやって積み上げてきたお金がもしものときに役に立つのだ。保険はお守りのようだなと思った。お守りがあると安心する。生命保険も同じだ。生命保険に入っていれば安心できるし、もしものときに役に立つ。安心できるお守りだ。生命保険は自分だけでなく、まわりの人の支えになることもある。普通のお守りとはひと味違う、スーパーなお守りなのかもしれない。今、生命保険について、まだまだ知らないことばかりだ。だから、もっと生命保険について知って、家族や友達に伝えていければいいなと思う。